STEP２ 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア，イ，ウ， エ，オ，カ	・被保険者数は２６年度まで減少傾向にあったが、短時間労働者の社会保険適用、定年再雇用制度の改正などがあり、２７年度から増加している。それに伴って、平均年齢も上昇している。 ・被扶養者数は、被扶養者調査の効果なのか、２７年度から減少している。しかし、医療費は減少していない。 ・高額医療費の推移から、難病が医療費を押し上げていることがわかる。	→	・健診受診による病気の早期発見・早期治療	✔
2	キ	・健康分布から、男性については業態比較で千葉トヨタ健保は肥満率が非常に高い。女性については業態比較で肥満率は非常に低い。 ・男性については、基準範囲内の割合が低い。女性については、基準範囲内の割合が高い。 ・男性については、肥満の人、非肥満の人ともに保健指導基準以上・受診勧奨基準以上の割合が高い。 ・女性については、非肥満の人で保健指導基準値以上の割合が高い。	→	・生活習慣病発症予防の徹底。 ・メタボ層に対する対策。 ・特定保健指導の実施方法の拡大による実施率の向上。 ・高血圧・脂質異常・高血糖者が多いことから、課題に応じた健康づくり施策の実践検討。	
3	ウ，キ	・被保険者男性医療費では、４５歳～５９歳の医療費が多くなっている。また、年齢が上がるにつれて、一人当たりの医療費も多くなっている。生活習慣病関連疾病が上位疾病となっている。	→	・生活習慣病発症予防の徹底。 ・メタボ層に対する対策。 ・特定保健指導の実施方法の拡大による実施率の向上。 ・高血圧・脂質異常・高血糖者が多いことから、課題に応じた健康づくり施策の実践検討。	
4	エ，キ	・被保険者女性医療費では、被保険者数に比例して医療費が多くなっている。また、３５歳～４９歳では一人当たり医療費が多くなっている。消化器系疾患、新生物など、早期発見・早期治療が必要な疾病項目が上位疾病となっている。	→	・被保険者女性、被扶養者女性ともに新生物の疾病が多いことから、人間ドック未受診者対策、コントロール不良の対象者への対策。	
5	カ	・被扶養者男性医療費では、被扶養者数の多い１９歳以下の医療費が多くなっている。 呼吸器系疾患の医療費、受診者数が突出していることから、かぜやアレルギー性鼻炎や喘息などが考えられる。	→	手洗い・歯磨き	
6	カ	・被扶養者女性医療費では、４０歳～５４歳の医療費が多くなっている。疾病分類で医療費が多い疾病は、新生物、呼吸器系疾患となっている。	→	・被保険者女性、被扶養者女性ともに新生物の疾病が多いことから、人間ドック未受診者対策、コントロール不良の対象者への対策。	

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	・被保険者全体のうち８７．５%が男性であり、女性の割合が低い傾向にある。 ・平均年齢は、４０歳を超えやや高い。加入者構成では、４０歳~４４歳男性の被保険者が基も高い。 ・健保組合には、医療専門職が不在。	→	・将来の加入者構成を考え、４０歳代の加入者への対策を重視。 ・受診環境の整備：人間ドック実施機関数を拡大。 ・予防医学的な知識・経験が必要な場面では、事業主の専門職もしくは委託事業者の活用を検討。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	・生活習慣病のリスク保有者への対策は、特定保健指導のみである。 ・人間ドック等の案内や保健情報提供方法は社内イントラやホームページで行っている。 ・人間ドック等の受診率にあまり変動がないことから、受診者の固定化。	→	・将来の加入者構成を考え、４０歳代の加入者への対策を重視。 ・受診環境の整備：人間ドック実施機関数を拡大。 ・予防医学的な知識・経験が必要な場面では、事業主の専門職もしくは委託事業者の活用を検討。